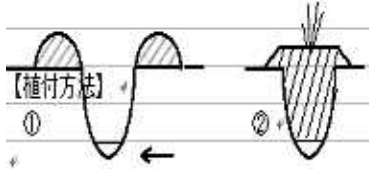
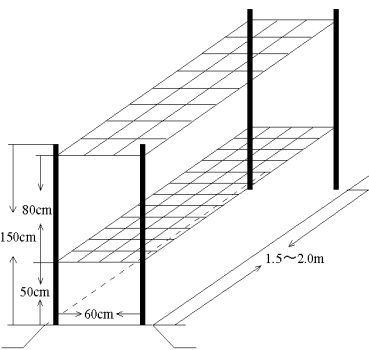
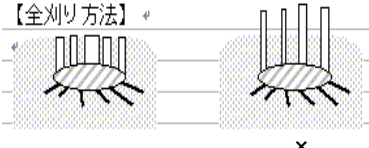


アスパラガス(1年目)

月	旬	作型	主要作業	作型	主要作業	栽培の要点	摘要
8	上中下	(秋植)	播種 (8月~9月)	(春植)		・品種 ウェルカム ・育苗方法 育苗ポット:ペーパーポット3号 播種量 :1d(3,000~3,500粒) 苗土 :野菜育苗苗土 播種量 :ポット1粒播き、覆土を2cm程度 ビニール被覆 :発芽適温は25~30。トンネル内 が30 以上は換気する。 発芽まで10~14日を要するので、 その間乾燥しないよう新聞紙や長ワラ で被覆し、発芽後、除去する。 ・定植後1ヶ月後に液肥を施要する。(特2号)	【基肥例】 10a当たり 完熟たい肥 20,000kg以上 B B タフネス280 100kg 基肥成分量 N-P-K = 12-39-10 基肥については、土壌分析に基づき 適正量を施肥する。 【購入苗を定植する場合】 ・到着後速やかに定植できるよう準備 しておく。 ・定植までに日数がかかる場合、 乾燥しないよう朝夕灌水する。 5日以上かかる場合、液肥1000倍 を灌水がわりに灌水する。
9	上中下		マルチ被覆 ビニール被覆 定植(9月下 ~11月)			・定植準備 圃場準備:できるだけ深耕し、畦高は25cm程 度とする。排水対策を必ず行う マルチ被覆:黒ポリマルチを使用する。	
10	上中下		追肥 茎の整理 誘引			・定植 定植適期苗姿 :草丈20cm、茎数3本(育苗日数40 ~60日) 定植密度:160cm×25cm 一条植え 2,500株/10a ハウス被覆:秋植えは、ハウス定植とし、冬季は保 温して生育を促進させる。	【植付方法】 
11	上中下		温度管理			・定植後の管理 かん水 :畦の表面が乾かないように適宜かん水 する。 換 気 :日中の温度が35度以上になったら換 気する。	堆肥 植溝を深さ60cm以上掘り、堆肥等の 有機物を入れる。 肥料を混ぜながら、植溝に土を戻す。 整畦後、定植する。
12	上中下		茎の整理	播種		・立茎・誘引 茎の整理 :茎数が10~15本になったら(草丈50~ 70cmの頃)徐々に細い茎から除去し、 株当たり5~6本程度にする。	
1	上中下		追肥	ビニール被覆		草丈が100~120cmになったら、茎径5 mm以下の細茎は除去し、株当たり4~5 本にする。 茎の径が8mm以上になった株は、4~ 5本に整理して、逐次収穫していく。	
2	上中下		茎の整理	定植		誘引 :倒伏防止のためにネットを二段で誘引 する	
3	上中下		マルチ除去 追肥・中耕 収穫開始 病害虫防除	茎の整理		・追肥 速効性肥料を月に2回 N - 2~3kg/10a施す。	
4	上中下		誘引	誘引		・病害虫防除 茎枯病、斑点病を蔓延させないように、過繁茂に ならないよう注意する。また、発病茎葉は、速や かに除去する。	【支柱立て・ネット張りの方法】 一段目のネットは、15cm角の4目 二段目のネットは、20cm角の3目
5	上中下		追肥	追肥		・収穫終了 10月下旬をめどに収穫を終了し、ハウスを開放 し、できるだけ寒気にあてて、地下部へ養分の転 流を促す。	* 春植は株の状態に応じて収穫を開始する。
6	上中下		病害虫防除	収穫開始		・かん水(収穫終了後) 収穫終了後の乾燥は翌春の萌芽が悪くなるので、適 宜かん水する。	【全刈り方法】 
7	上中下		病害虫防除	収穫終了		・全刈り 全体の茎葉が完全に黄化した頃、地際部ストレスに 全刈りし、地表面を焼却する。残渣も取り除く。 整畦後、トリフミン水和剤1000倍液を灌注すると ともに除草剤の散布を行う(センコル水和剤)。	
8	上中下		病害虫防除	全刈り			
9	上中下		病害虫防除	全刈り			
10	上中下		病害虫防除	全刈り			
11	上中下		病害虫防除	全刈り			
12	上中下		除草剤散布	全刈り			